

マーチャント・バンカーズ（株）

2021年3月期 第2四半期決算・補足説明資料

November 13, 2020

東証2部（コード：3121）



マーチャント・バンカーズ株式会社

上期下方修正・通期業績予想は変えず！

- マーチャント・バンキング事業は安定的な貸貸収入で増収・増益、オペレーション事業はホテルオペレーション事業（11月末撤退予定）が新型コロナ禍の影響で大幅な減収・減益となった。
- 新型コロナ禍の影響によるホテルオペレーション事業撤退等による特別損失159百万円を計上。
- 審査・プロモーション手数料としての受領済み米ドル連動型ステーブルコイン200万枚の内3.6万枚を上期売上計上、残りの196.4万枚分は下期に売上計上予定で、**通期の業績予想は変更せず**。

（百万円）	2020/3期 2Q実績	2021/3期 2Q予想	2021/3期 2Q実績	前期比 %	2021/3期 通期予想	2020/3期 前期実績	前期比 %
売上高	896	1,200	666	▲25.7%	2,500	2,448	+2.1%
マーチャント・バンキング	339	-	376	+10.8%	-	1,370	
オペレーション	557	-	289	▲48.0%	-	1,077	
営業利益	35	260	▲35	-	600	215	+178.2%
経常利益	▲20	210	▲81	-	500	108	+362.4%
2Q当期純利益	▲21	130	▲217	-	300	83	+259.2%

2021年3期 第2四半期決算総括

■ 業績面： **上期下方修正なるも、通期業績予想は変えず！**

① **マーチャント・バンキング事業**：エストニアでの暗号資産交換所「ANGOO Fintech」運営開始に伴う、**手数料計上の下期ズレ込みにより、上期業績は下方修正となるも、通期業績予想に変化無し**。全国25物件の賃貸マンションが安定収益（約7億円の家賃収入）として貢献。

② **オペレーション事業**：長期化する新型コロナの状況下で、**ホテルオペレーション事業は赤字計上となり、撤退を決定**。当社保有の「Rホテルイン北九州」においては、自社運営を継続し付加価値を上げ、将来売却予定。商業施設内の催事場でのファンションブランド販売のケテンはコロナ禍で堅調に需要取込み、持分適法子会社のアビスジャパンも既存のLED事業に加え、「空き家対策事業」をスタートし堅調に推移。

■ 下期に向けたトピックス

① B F H（バルティック・フィンテック・ホールディングス）を子会社化し、**エストニアの暗号資産交換所の事業拡大を下期より本格推進**。M & Aや業務提携により、ブロックチェーン技術をベースとした決済プラットフォーム事業をエストニアを起点にグローバルに展開。

② 本体の不動産ノウハウに加え、アビスジャパンの空き家対策事業等の連動し、**「不動産テック」、ブロックチェーンや暗号資産を活用した日本の不動産の海外投資家へのグローバル販売に着手**。

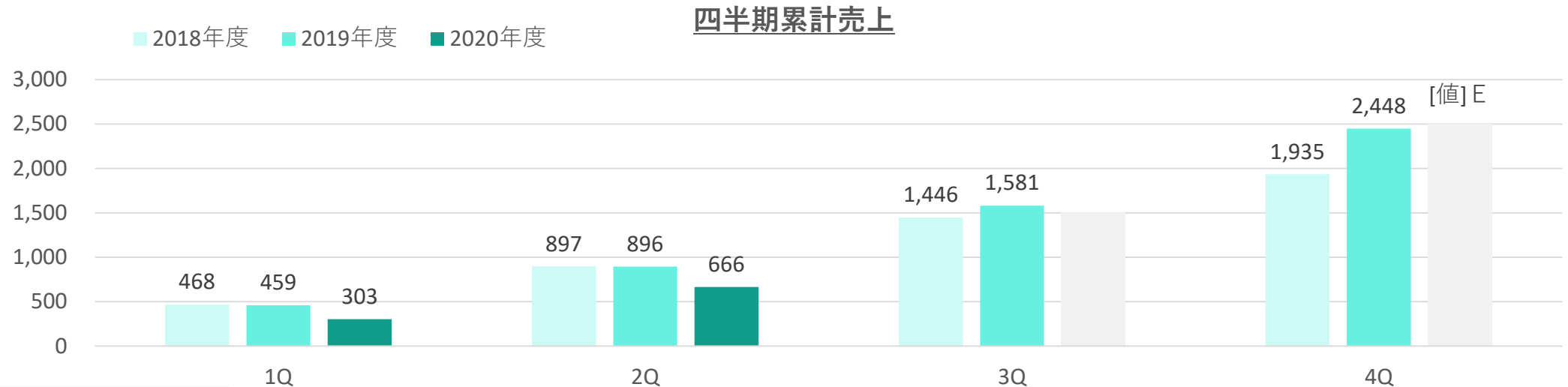
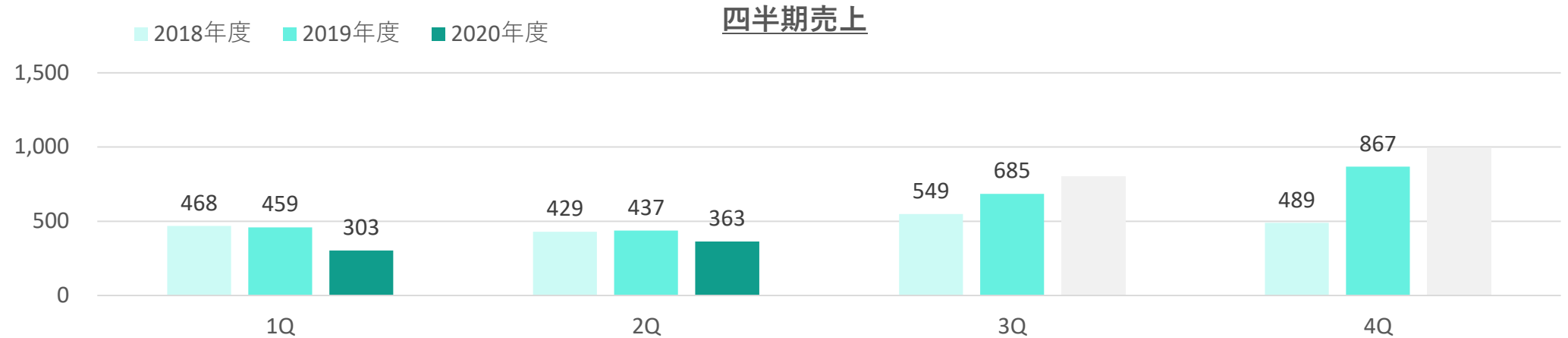
2021/3期 第2四半期損益サマリー

- セグメント別利益は、マーチャント・バンキング事業が124百万円（前期比+5.5%）、オペレーション事業が▲73百万円（前期利益4百万円）
- 特別利益：助成金収入24百万円
- 特別損失：新型コロナ関連損失26百万円、ホテルオペレーション関連の減損損失132百万円

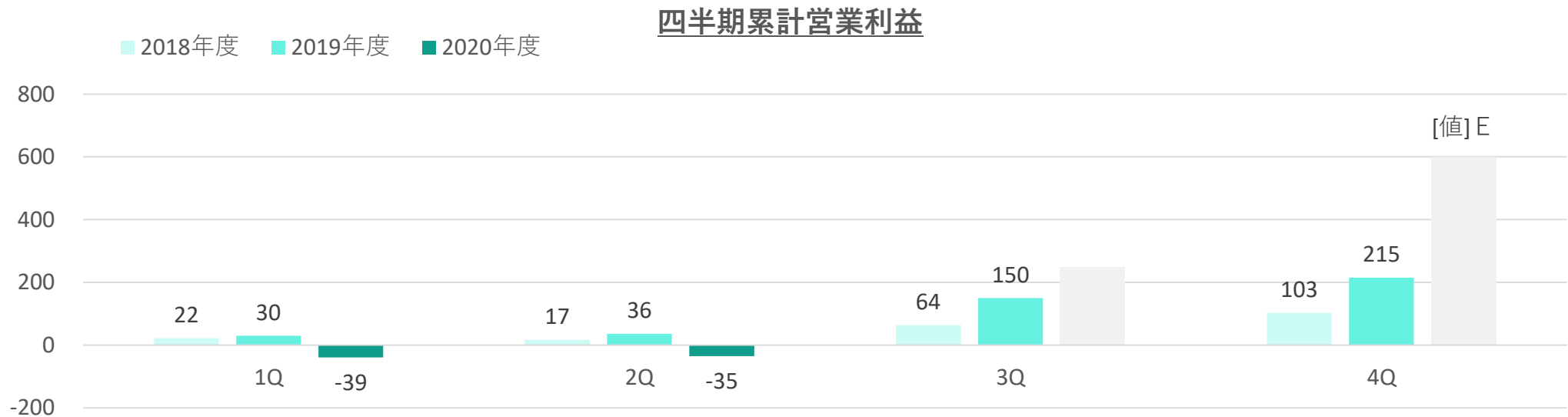
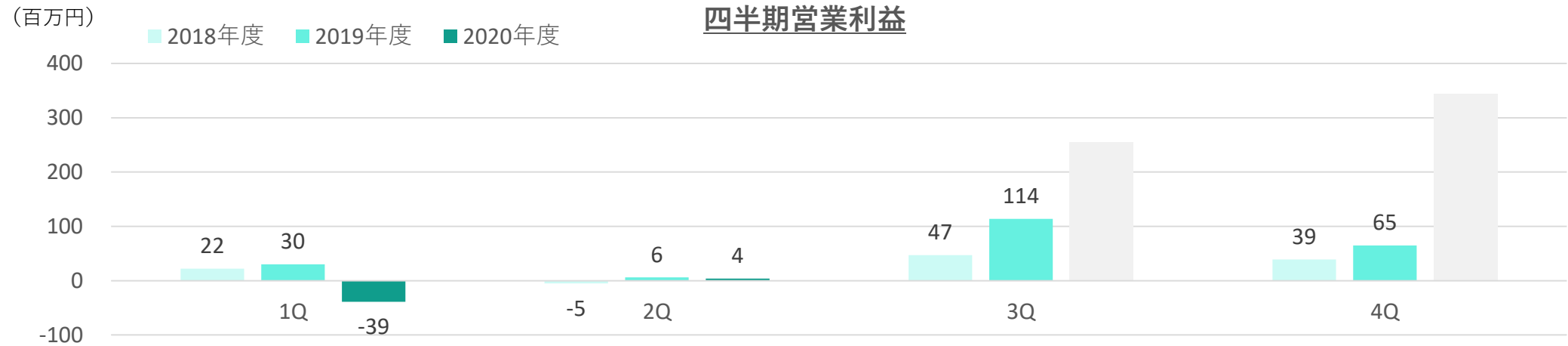
（百万円）	2020/3期 2Q	構成比%	2021/3期 2Q	構成比%	前期比 増減額	前期比 %
売上高	896	100%	666	100%	▲230	▲25.7%
マーチャント・バンキング	339	37.8%	376	56.5%	+37	+10.9%
オペレーション	557	62.2%	289	43.4%	▲268	▲48.1%
売上総利益	496	55.4%	297	44.6%	▲199	▲40.1%
販売管理費	461	51.5%	333	50.0%	▲128	▲27.8%
営業利益	35	3.9%	▲35	-	▲70	-
営業外損益	▲55	▲6.1%	▲45	-	+10	-
経常利益	▲20	▲2.2%	▲81	-	▲61	-
2Q 当期純利益	▲21	▲2.3%	▲217	-	▲196	-

四半期毎の売上推移

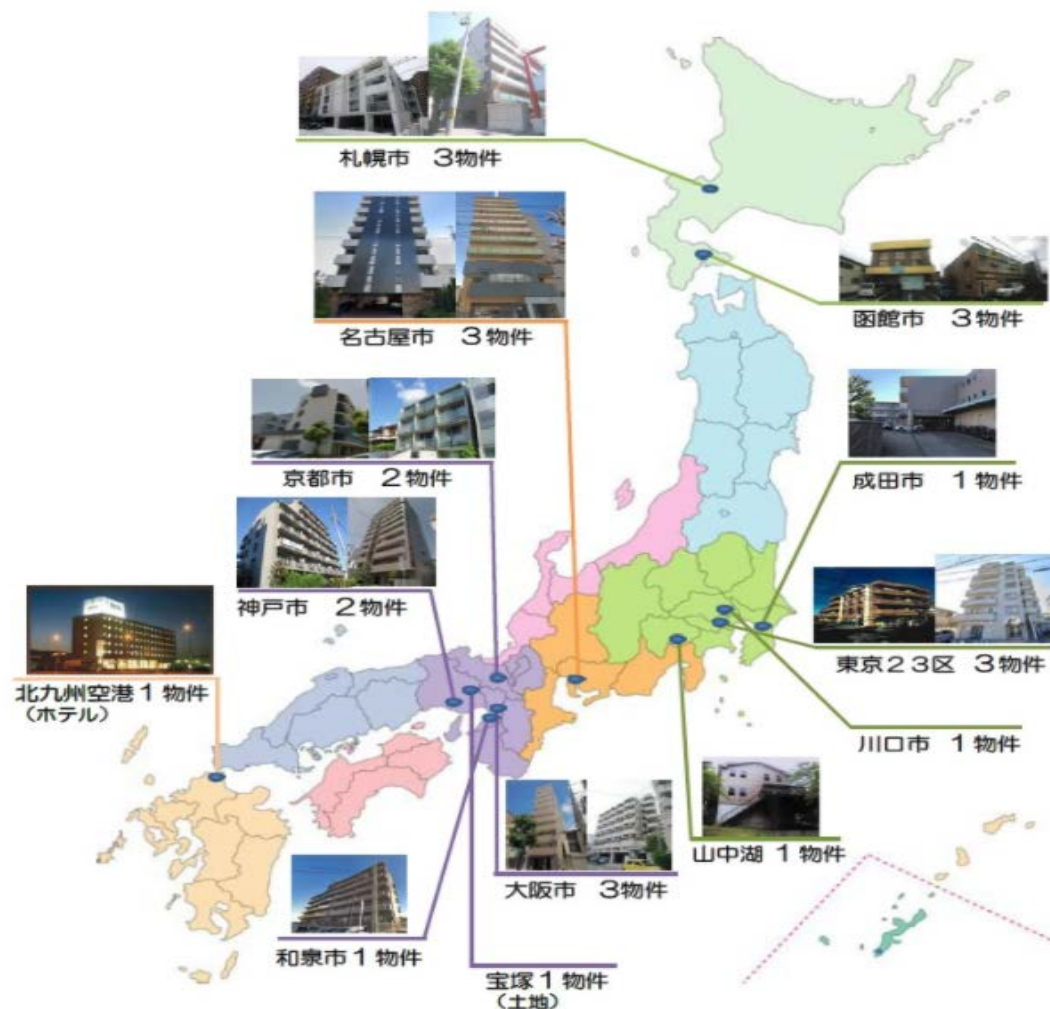
(百万円)



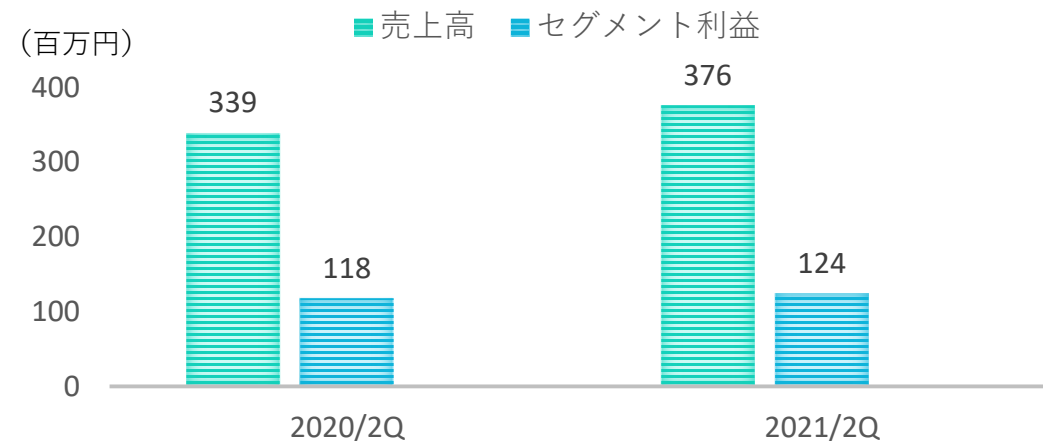
四半期毎の営業利益の推移



マーチャント・バンキング事業
(当社安定収益源の賃貸マンション)



- 全国に25棟の不動産賃貸ビル保有
(約100億円)
- 年間家賃収入 (約7億円、5~6%利回り)
- 賃貸マンションが中心でコロナ禍の影響無し
- 今後、優良物件あれば積極購入



オペレーション事業

北九州空港近く
福岡県京都郡苅田町苅田3787-61

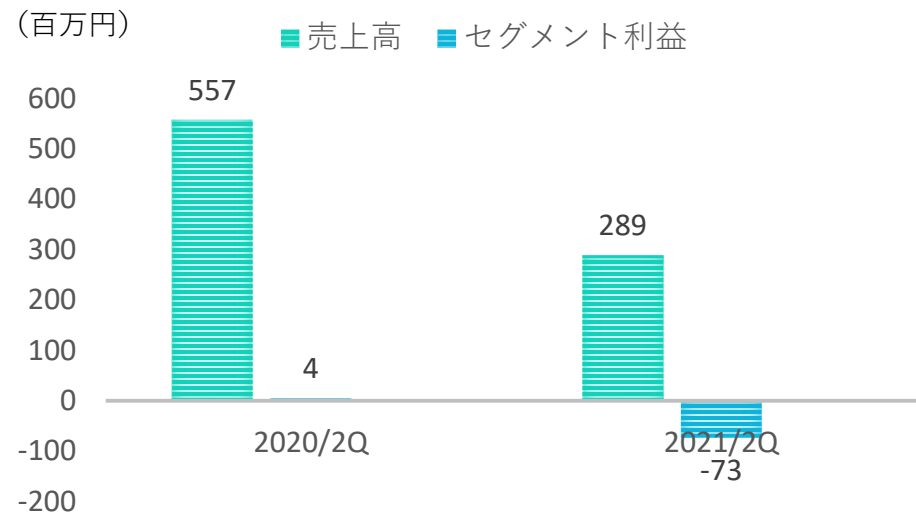


■ 新型コロナ禍の影響を受け、
ホテルオペレーション事業より撤退

自社物件の「Rホテルイン北九州エアポート」は自社オペレーションに切り替え、売却予定



■ 愛媛大学医学部附属病院 給食事業

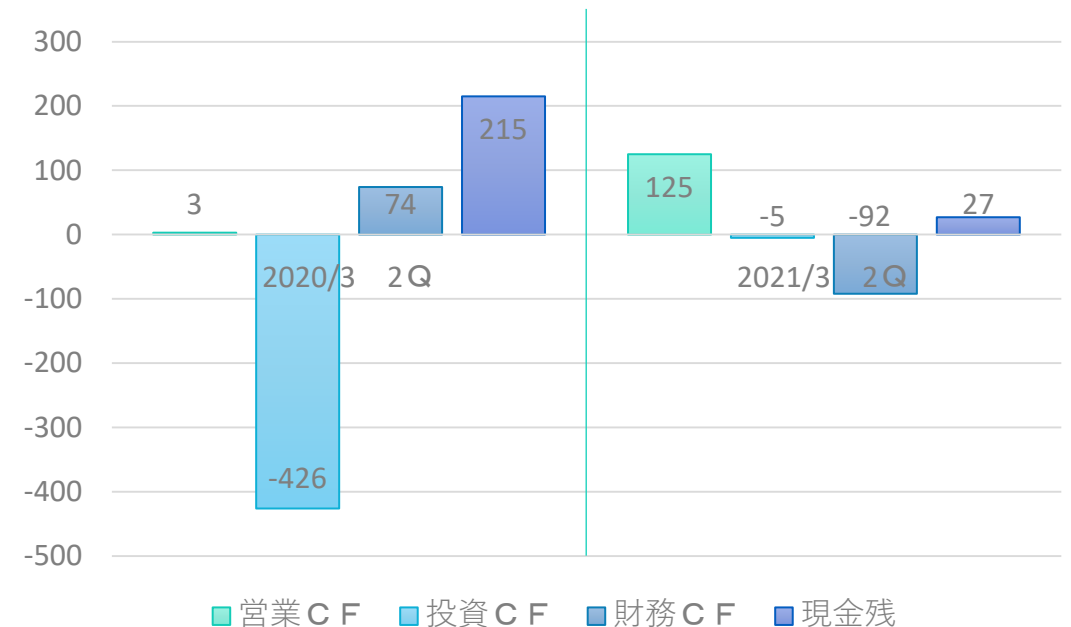


■ 子会社（株）ケンテンは東急、J R 東日本、イオンモール等の商業施設内の店舗、催事場での期間限定店舗の企画・販売を実施

■ コロナ禍でのニーズ拡大。

貸借対照表 & キャッシュフロー

単位: 百万円		2020年3月期	2020年9月末
流動資産		985	844
	現預金	290	320
	受取手形及び売掛金	67	72
	投資有価証券・販売用不動産	453	339
	その他	175	113
固定資産		9,872	9,633
	有形固定資産	9,425	9,338
	無形固定資産	178	38
	投資その他の資産	268	256
総資産		10,858	10,478
流動負債		536	468
	買掛金	35	33
	短期借入金	326	323
	その他	175	112
固定負債		6,792	6,733
	長期借入金	6,698	6,644
	その他	94	89
純資産		3,529	3,276
	株主資本合計	3,540	3,294
	その他包括利益累計等	▲11	▲18
負債純資産合計		10,858	10,478



- 自己資本比率32.5% → 31.3%
- 減価償却費+のれん = ▲110百万円
- フリーCF = 120百万円

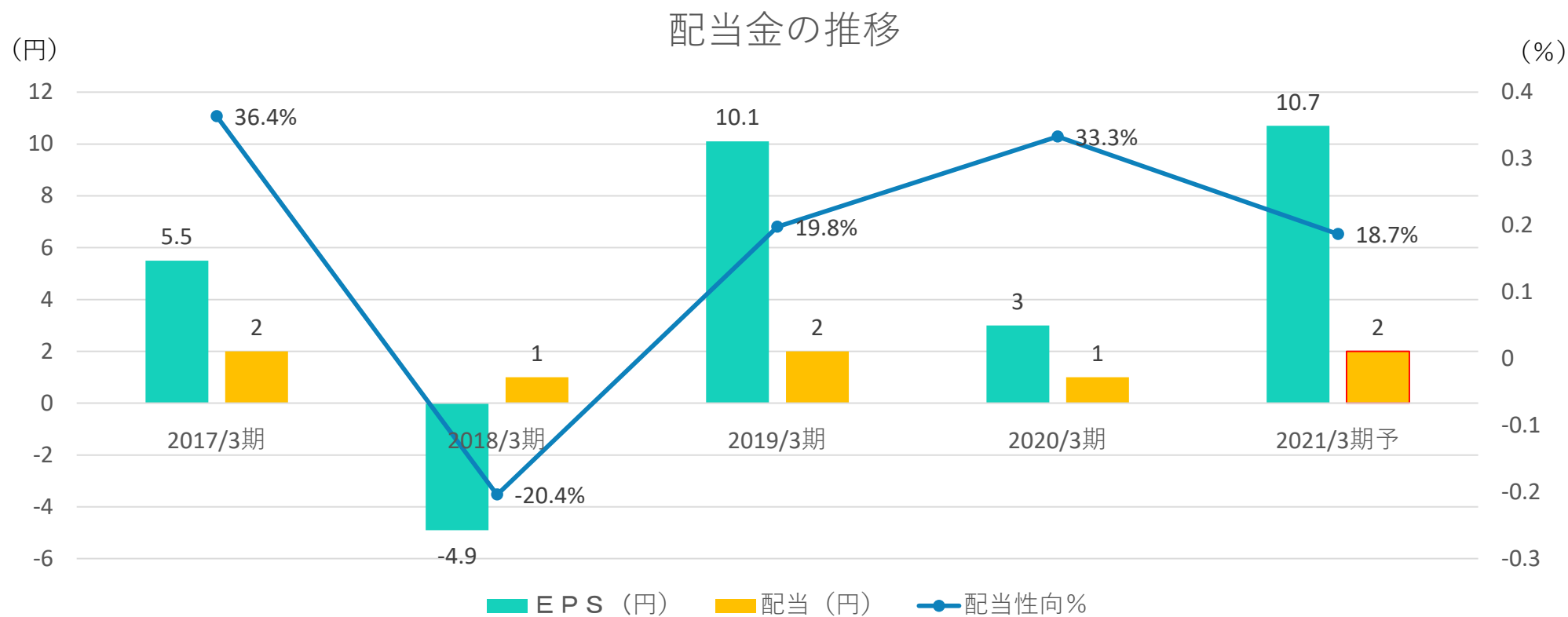
通期（2021/3期）業績予想

- コロナ禍でのオペレーション事業の減収分を、マーチャントバンキング事業におけるブロックチェーン・暗号通貨関連事業でカバーし、**通期業績予想は期初予想と変えず。配当予想も2円の変更なし。**
- 既に受領済みの米ドル連動型ステーブルコイン1,964千枚分を下期に売上計上予定。

（百万円）	2020/3期 実績	構成比%	2021/3期 計画	構成比%	前期比増 減額	前期比 %
売上高	2,448	100%	2,500	100%	+52	+2.1%
マーチャント・バンキング	1,370	56.0%	-	-	-	-
オペレーション	1,077	44.0%	-	-	-	-
営業利益	215	8.8%	600	24.0%	385	+178.2%
経常利益	108	4.4%	500	20.0%	392	+362.4%
当期純利益	83	3.4%	300	12.0%	217	+259.2%

配当方針

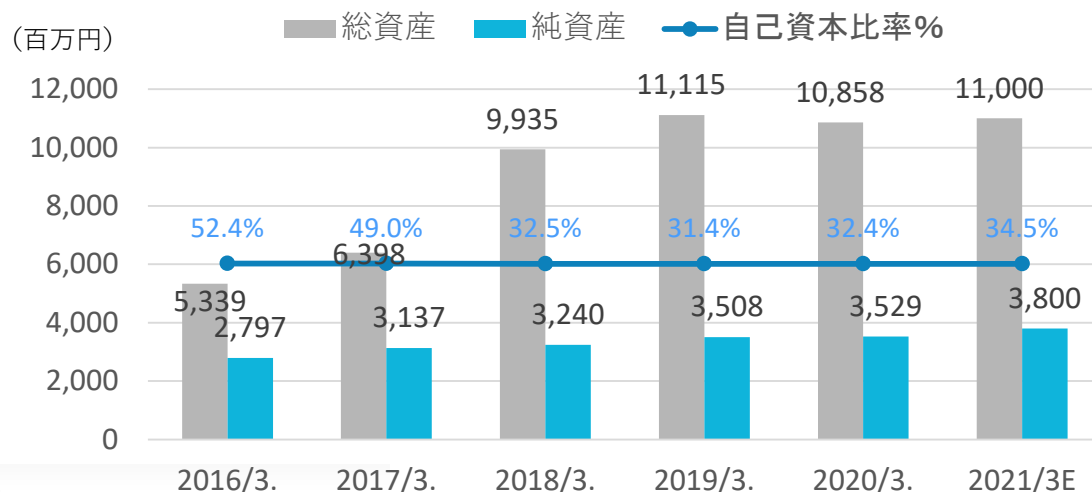
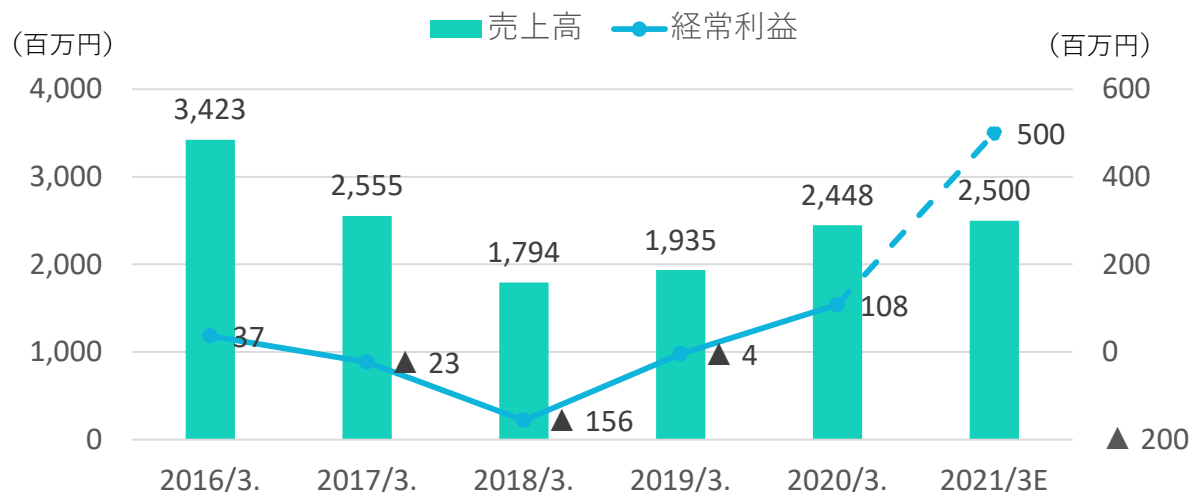
- 安定配当を前提に、成長への内部留保と株主還元の継続性を基本方針



当社ビジネス戦略



過去からの業績推移



■ 2016年に投資会社としての再出発！

「RESTART」計画を推進

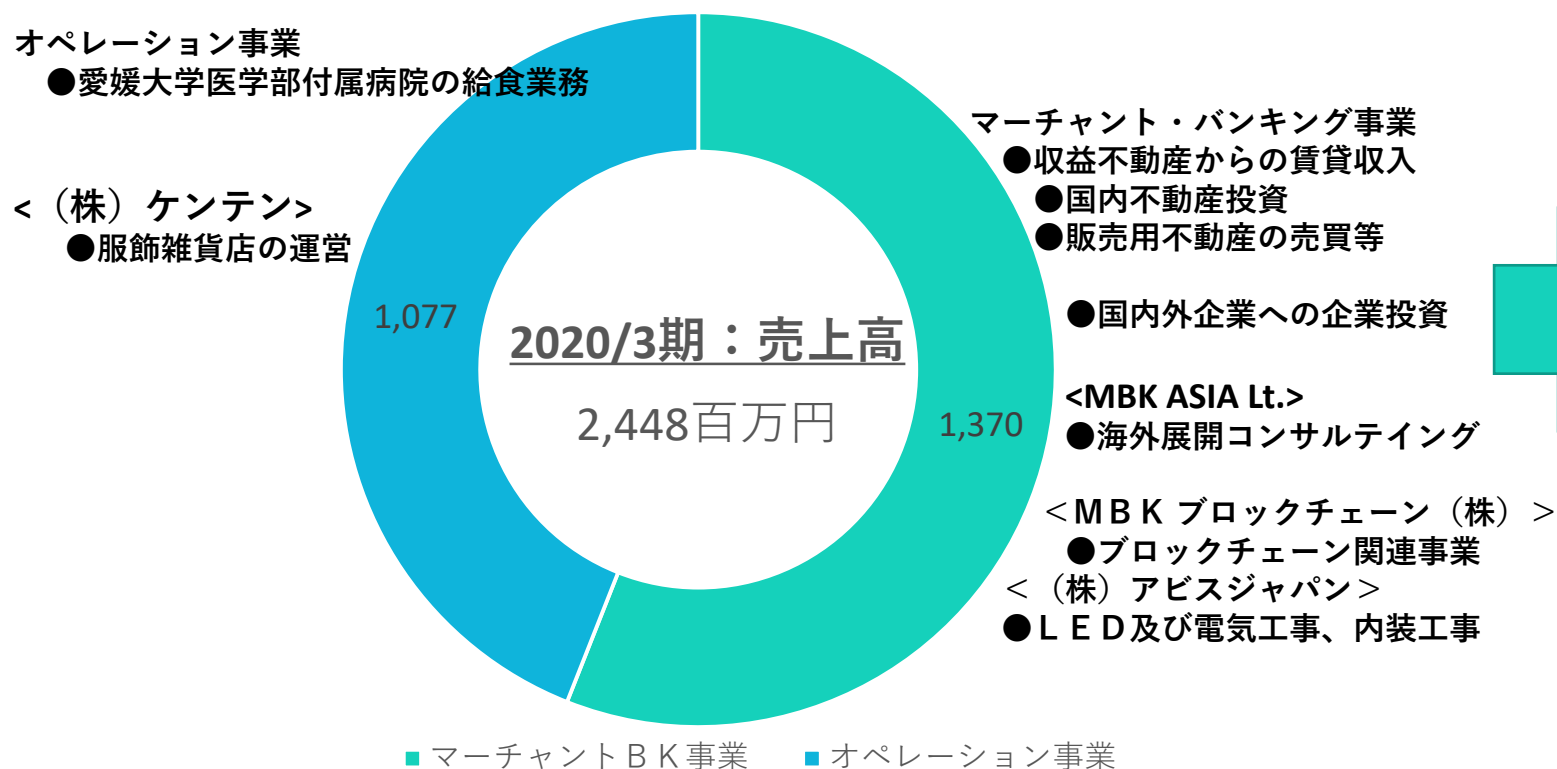
- ・リストラクチャリングによるコンパクトなグループ体制構築
- ・収益不動産による安定収益体質構築
- ・増資/投資回収による本格的な投資活動再開



- 約100億円の賃貸住宅25物件を全国に保有
- Withコロナ時代を見据え、2020年上期ホテルオペレーション事業から撤退
- ブロックチェーンを活用した暗号資産取引所運営（エストニア）による収益拡大

当社のビジネスモデル（現状）

- 現在、①マーチャント・バンキング事業 ②オペレーション事業の2セグメントであるが、オペレーション事業内のホテルオペレーションは撤退し、病院給食業務、服飾雑貨運営業務を強化。マーチャント・バンキング事業は、ブロックチェーン関連事業が今後の成長ドライバー



2021/3期

- 5月：エストニアで暗号資産（仮想通貨）交換所運営開始「ANGOO Fintech」
→子会社BFHが運営
- 10月：BFH（株）バルティック・フィンテック・ホールディングスの子会社化
- 11月：ブロックチェーン技術と暗号資産交換所を活用した不動産テック事業を本格化

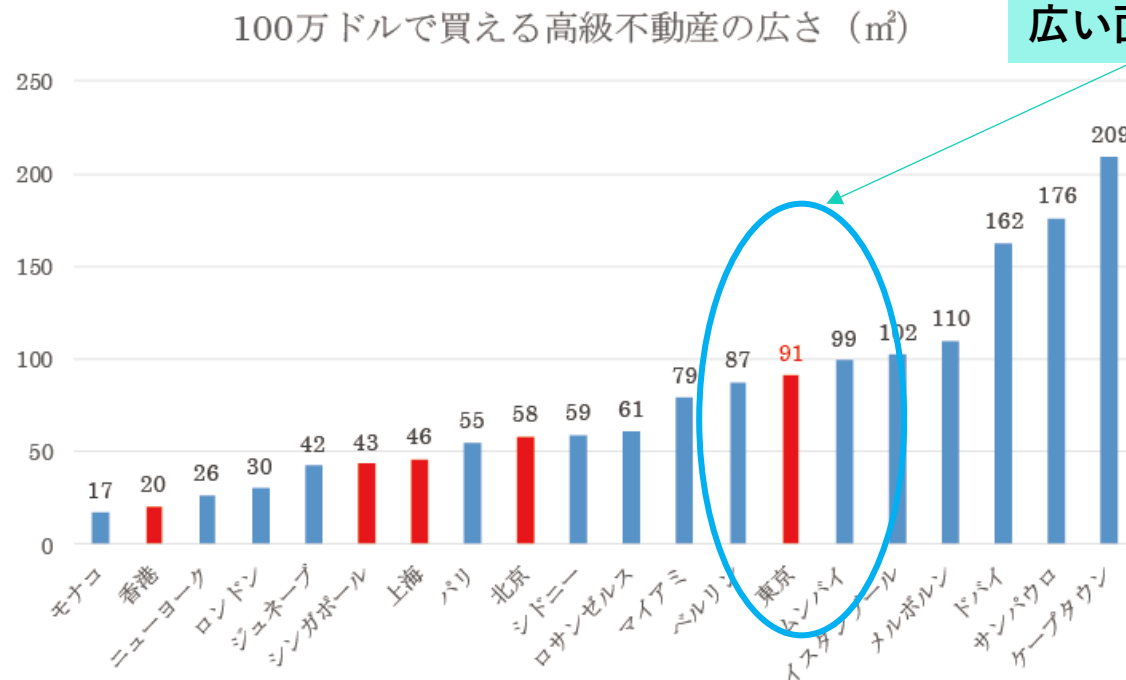
当社のビジネスモデル（今期以降の発展）

- マーチャントバンキング事業で培った、不動産投資・開発ノウハウを生かし、ブロックチェーン技術による国内収益不動産のトークン（デジタル権利証）によるグローバル市場での販売、管理・運営を実施。 「不動産テック」

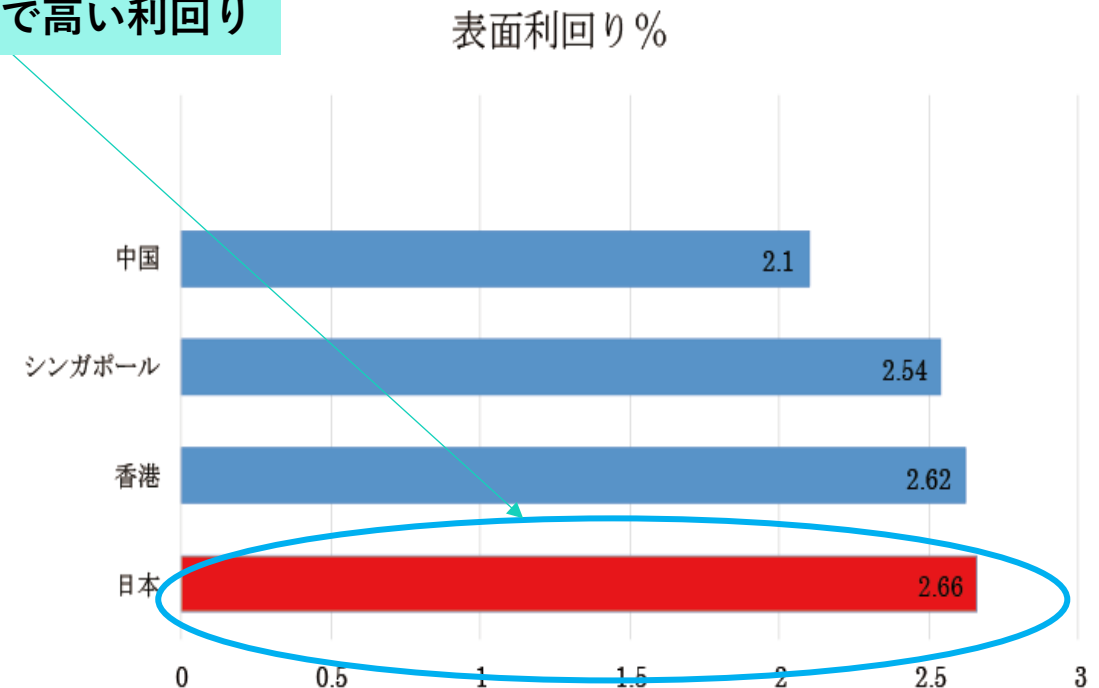


マーチャント・バンキング事業：不動産テック

- 不動産テック：「不動産×テクノロジー」つまり、不動産に関わる業界課題や従来の商習慣の変革！
- MBKは、ブロックチェーン技術や決済手段としての暗号資産活用による、**国境を越えた不動産取引決済を安全且つ迅速に行っていきます。(日本の不動産は、アジア人には人気継続)**



アジア各国比較：
広い面積で高い利回り

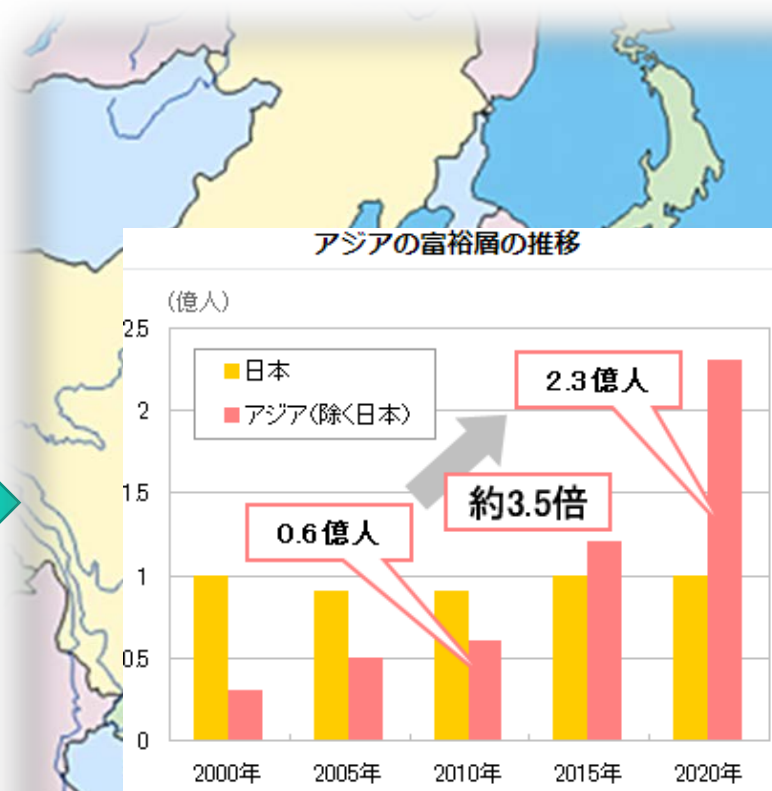
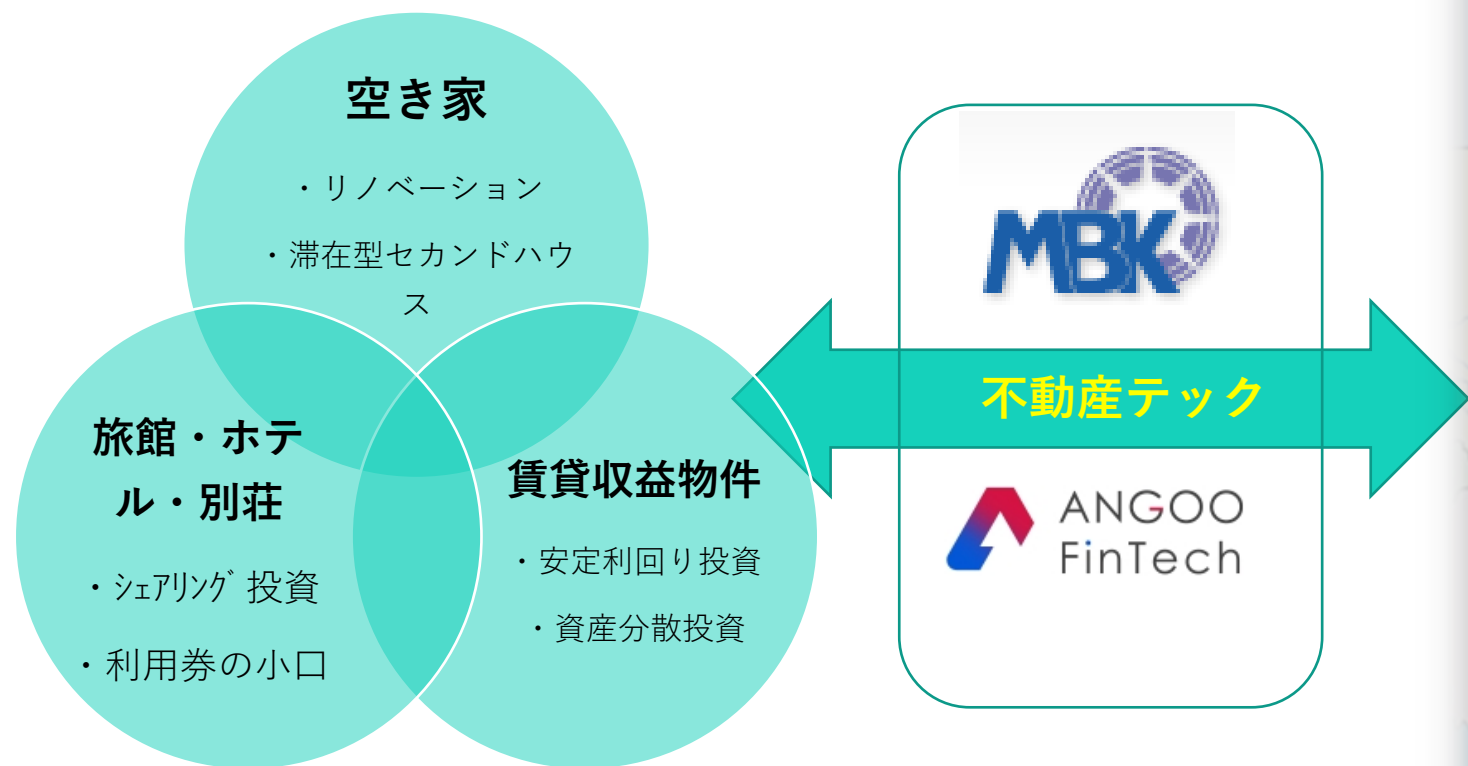


引用元：The Wealth Report 2017 11th edition

引用元：Global Property Guide ※2018～2019年更新データより 16

日本の不動産の抱える問題を解決

■ 国内の少子高齢化による、空き家問題、地方不動産の疲弊、リゾート・観光地の疲弊化をM B Kは不動産テックで再生を図ります。

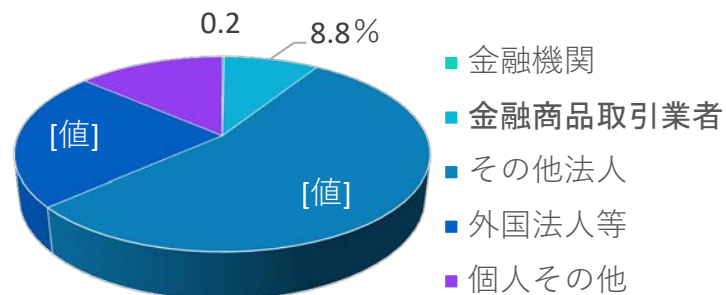


出所：経済産業省データ

会社概要

商号:	マーチャント・バンカーズ株式会社（東証2部：3121） MBK Co.,Ltd.
設立：	1947年3月
事業内容:	国内外の企業・不動産への投資・M & A、 グローバルでのブロックチェーンビジネス
本社所在地:	東京都千代田区有楽町一丁目7番1号
資本金:	2,848百万円（株主数 3,690名） 2020/9末
決算期:	3月31日
従業員数：	50名(正社員) 2020/3末
役員：	代表取締役社長兼CEO 一木 茂 他常勤取締役 4名、社外取締役 2名 社外監査役3名（うち常勤監査役1名）
子会社：	（株）ホテルシステム二十一、（株）ケンテン MBKブロックチェーン（株） （株）バルティック・フィンテック・ホールディングス

株主構成
2020/9末
(株主数：3,690)



代表取締役社長兼CEO 一木 茂

1997年：日本長期信用銀行
（現新生銀行）入社
2006年：アセット・マネージャーズ
（現いちご株式会社）取締役兼代表執行役
2007年：当社代表取締役会長
2014年：当社代表取締役社長

【お問い合わせ先】

マーチャント・バンカーズ株式会社

取締役 C F O 兼財務経理部長

高崎 正年

T E L : 03-5224-4900

■本資料の注意点

本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。投資に関する決定は、ご自身のご判断において行われるようお願いいたします。本資料に掲載されている業績見通し、中期計画、その他今後の予測・戦略等に関わる情報は、現時点で入手可能な情報と合理的であると判断する一定の前提に基づき当社が予測したものです。実際の業績は、様々なリスク要因や不確実な要素により、業績見通しと大きく異なる可能性があります。本資料中の情報によって生じた影響や損害について、当社は一切責任を負いません。なお、いかなる目的であれ、本資料を無断で複写複製、または転送等を行わないようお願いいたします。